



小城市立歴史資料館 ✿ 中林梧竹記念館だより

佐賀大学交流事業特別展の開場式を行いました

11月4日(金)、小城市立歴史資料館^{こ だまひるあき}で児玉浩明^{みつおかあきら}佐賀大学学長、江里口市長、光岡実小城市議会副議長、大野教育長出席で交流事業特別展のテープカットが行われました。

この事業は、佐賀大学地域学歴史文化研究センターと小城市で、佐賀大学附属図書館所蔵の小城鍋島文庫(旧小城藩の古文書類)を活用した調査・研究の成果を、交流展および刊行物の発行により市民に紹介する事業です。現在、交流事業に伴う特別展「佐賀藩と小城藩—本家と分家の複雑な関係—」を開催中です。



テープカット
セレモニー▶

「空・創・感」ワークショップを開催しました

小城市立歴史資料館2階の企画展示室および創造のガラス壁ギャラリーでは、「空・創・感」を開催しました。そのなかで、夏休み特別企画として子どもが楽しめる参加型ワークショップを開催しました。

参加した小学生はキャンバスにいろいろな絵を描いたり工作をしたりしました。作品は桜城館2階ロビーに展示しました。



▲ワークショップの様子

おぎの歴史 ✿ 探検隊

幕末小城藩と帆船「大木丸」の物語〈その2〉

慶応2(1866)年、小城藩は長崎で、バルク型という3本マストの帆船を購入しました。「大木丸」と命名されたこの船は、六角川の河口に近い、芦刈の住之江港を母港とすることになります。幕府への届出によれば大木丸の運用目的は、平時は米などの貨物運送で、戦時には軍艦に使用することでした。

住之江を母港に活動していた大木丸ですが、いよいよ海外渡航のときがやって来ます。それは2度にわたる上海への航海でした。どちらも佐賀藩による借り受けで、藩営佐賀商会の上海支店を当地に開設し、交易をするためでした。

最初の渡航は慶応3(1867)年6月のこと。小城の和紙、高島炭鋳の石炭、有田の陶磁器などを積んだ船は、小城藩の内山栄三^{うちやま えいぞう}を船長に、16日間か

かって上海に到着。この停泊中、英国留学から帰国する佐賀藩の石丸虎五郎^{いしまる とらごろう}と馬渡八郎^{まわたり はちろう}が、大木丸を訪ねて来ました。同じ佐賀人として、よほど嬉しかったのでしよう。

2度目の渡航は翌年8月で、積荷は唐津の石炭、小城の和紙、有田の陶磁器などでした。1週間で上海に着いた大木丸は1カ月あまり停泊し、乗組員は市街見物をおおいに楽しんでようです。(続)

小城郷土史研究会／著



◀現在の六角川付近

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132